

37:14 これに耳を傾けよ。ヨブ。神の奇しいみわざを、じっと考えよ。

37:15 あなたは知っているか。神がどのようにこれらに命じ、その雲にいなずまをひらめかせるかを。

37:16 あなたは濃い雲のつり合いを知っているか。完全な知識を持つ方の不思議なみわざを。

37:17 また、南風で地がもだすとき、あなたの着物がいかに熱くなるかを。

37:18 あなたは、鑄た鏡のように堅い大空を神とともに張り延ばすことができるのか。

37:19 神に何と言うべきかを私たちに教えよ。やみのために、私たちはことばを並べることができない。

37:20 私が語りたいと、神にどうして伝えられようか。人が尋ねるなら、必ず彼は滅ぼされる。

37:21 今、雨雲の中に輝いている光を見ることはできない。しかし、風が吹き去るとこれをきよめる。

37:22 北から黄金の輝きが現われ、神の回りには恐るべき尊厳がある。

37:23 私たちが見つけることのできない全能者は、力とさばきにすぐれた方。義に富み、苦しめることをしない。

37:24 だから、人々は神を恐れなければならない。神は心のこごかしい者を決して顧みない。

エリフは他の友人たちが、因果応報の神観に囚われて、神を人間の価値判断に従う程度の存在にしているのを聞きながら、それよりももっと高いレベルの神観を論じています。またそのようなレベルの高

い議論をしているという自負があったでしょう。超越的で絶対的な神観を論じているだからなおさらです。

しかしヨブの心には届きませんでした。人間はどんなに立派なことを主張しても、それを人に得心させるのは神だからです。エペソ書には「1:17 どうか…栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。…神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」とありますから、聖霊によって神を知る以外にないし、また聖霊によって語る必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

